

研究主題 「確かな国語力を育む国語教育の在り方」

— 児童一人一人の想像力・表現力の向上を目指した「詩」の指導の一考察 —

日立市立大久保小学校 矢板 睦美

1 はじめに

国語科において取り組むべき言語活動の重要性を問われ続けて久しい。その間指導法の改善や指導内容の重点化、児童生徒が主体的に活動できる場の設定など、数多くの試みをしてきた昨今である。さらに、基礎基本の定着がなされるようにと3領域と言語事項を言語活動例と関連付けながら、学習する内容を明確にし、次の学習に繋がるような広がりのある学習展開を大切にしてきた。また、今日的な課題として「学力の低下」や「生きて働く力」としての学び、児童生徒を取り巻く言語環境、自己表現力の貧弱さや思考力の深まりの不足などが問われている。これらの課題は、実践を行ってきたクラスでも同じような傾向が見られ、課題解決のための学習展開を早急に図っていく必要があると考えた。

国語科での学習が土台となり、他の教科領域へ広がりがある表現力の向上は、これからの学習も含め、社会の一員として対応していく上でもとても大切であると捉えている。自分の言いたいこと、伝えたいこと、知らせたいことを言葉の力を基に発信し、自と他の交流（コミュニケーション）をしていくことの大切さに気付かせることがこれからの言語能力の向上には求められていると捉えている。しかし、自と他の交流のためには、単に表現力の向上を目指していくだけではなく、児童一人一人が持つ言葉に向き合う力や読み取る力、語彙力も重要な要素と言える。そのため、偏りのない学習展開、学習の学びを生かしていく力、学びを使っていく力など、総合した国語力が必要であると感じている。

2 課題設定の理由

国語科の目標

「国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。」

(1) 課題設定の理由

目標の中にある「適切に表現」の部分の着目すると、言葉の表面的な部分だけの理解で言葉が持っている本来の意味や、作者が思いを込めて使った言葉の意図を深く捉えようとしないう傾向が見られる。多くを語らなくても、何となくその場の雰囲気ややりとりで、相手の思いを理解できてしまう傾向があるを児童生徒の生活から感じてしまう。また、一緒にいてもほとんど会話らしい会話もない状況や単語だけ、内容の捉え方の違いからの言い争いなど、言語環境について問う必要がある様子が見られる。つまり、使うべき言葉や言葉が持つ意味、感じてほしい思い等意識をしていないのである。これは、言葉や文章の「読み」がしっかりしていないがために、どんな場面でどんな言葉を使うのか、言葉から発する背景が何を意味しているのかが分からないがために生じる問題と捉えた。したがって、「言葉」を意識した読みの時間を設定する必要があると感じた。このことは、言葉から発する疑問点や意味などを考える機会を、国語科の学習に限らず様々な場面で意図的に設定していくことが大切な学びであると思っている。

文章の読み取りの学習を進めると、話の筋や気持ちの変容を捉えたりキーワードを見つけたりすることはできても、それらを要約したり言い換えたりする学習となると貧弱な言葉での表現になってしまう。「何となく分かる」「うまく言えない」「どんな様子がよくわからない」など、うまく表現するための「術」がしっかり身に付いていないことがわかった。

そこで、詩という短い文の中に秘められている様々な要因を導き出すことで、言葉が発する「裏側の部分」を探り、思いを膨らませることの楽しさを味わわせ、気づきを自分が読み取った内容として伝えることで、読み取りを自由に表現するおもしろさを感じさせたいと考え、本単元の設定をした。

(2) 主題の捉え

主題にある想像力と表現力は、次のように捉えた。

想像力…文字を通してみえてくる景色や様子を五感でつかみ取っていく力

ここでの五感は「見て」「聞いて」「嗅いで」「味わって」「触って」とする。

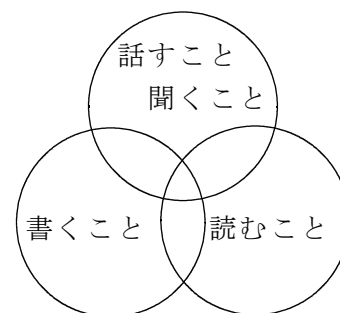
表現力…自分が知り得た語彙を適切に使って、自分が読み取ったの作者の思いや考えを受け手にわかりやすく伝える力

ここでは文字言語（読み取った内容）による表現を重視する。

(3) 3つの領域の関連性

今回の実践では、「詩を読む」ことを掲げ「読むこと」の分野について取り上げるが、自分の思いを表現するためには、読み取った内容をどう表記するかの技能も問われることになる。したがって、伝えるためにはどんな言葉（文字）を使っていくかも大切な学びの対象と言える。また、読んで理解し、それを発信するためには、どう書くかも大切である。そして、自と他の思いを共有するためにどんな方法を用いるかも大切になってくる。つまり、読むためには、「読むこと」に重点を置きつつ、「読むこと」だけを取り上げるのではなく、常に他の領域の学びも意識することが重要になってくると考えている。各領域の学習内容の重点化を図ることはもちろんだが、その学習を支える基礎基本となっている学習内容についても振り返りや確認をして「読むこと」の学びがより確実なものとなるような手立てを考えていきたいと思っている。このことが、ここで言う3領域の融合であり、関連性と捉える。

総合的な国語力



3 研究の仮説

- (1) どんな言葉に着目すればいいのか、考えたことをどう整理していけばいいのかなどの学び方の提示をしていけば、児童一人一人が考え方の方向性が確認でき、自分の気づきに自信を持って表現することができるであろう。
- (2) 個々が活動できる時間を十分確保することによって、文や言葉、文脈（本研究に関しては「連」）にじっくり向き合うことができ、読み取りを整理しながら自分の考えをもつことができるであろう。
- (3) 文面の言葉をていねいに追いながら、表現の工夫や技法を学ぶことによって、言葉の背景にある隠れた部分にまで読みの世界を広げていくことができるであろう。

4 実践事例

(1) 学習指導案

1) 単 元 情景を感じ取って 詩を味わおう

2) 目 標

- 詩を読んで、その情景を感じ、自分の思いを広げたり深めたりしようとしている。
(関心・意欲・態度)
- 連の描写をとらえ、内面にある心情を表現の仕方に注意して想像豊かに読むことができる。
(読むこと)
- 言葉の意味や比較、繰り返しに気づきながら、心情表現の方法を知ることができる。

(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

3) 指導にあたって

- ・教材観 本教材は、五連からなっている詩で、一連が二行と児童が受け入れやすい構成になっている。全体の十行の中には、繰り返しの言い方や意味がいくつにもとれる言葉が盛り込まれている。また、朗読する上でも短時間で覚えることができる詩である。そして、現物に変化していく過程やそこから見えてくる作者の思い・希望など、読み手が内容をどう読み取るかによって広がりを持たせることができる。ここでは、短い言葉の中に隠された情景や作者の思いを優れた叙述の中から感じ取り、自分の考えを広げたり深めたりすることをねらっている。

- ・児童観 明るく活発な児童である。読書を好み、朝の時間や課題が早く終了したときは自分から本を広げている姿をよく目にする。読書をしている時は、集中しており静かな環境を自分たちで作ることができる。読書の幅は比較的広く、物語や伝記はもちろん趣味の本や図鑑など様々なジャンルに親しんでいる。

読解に関しては、文章中の核となる言葉や心情を表す言葉に着目することはできるが、言葉の後ろにある感情や情景に気付くことは難しい。

(アンケートは28名で実施)

国語科に関するアンケート

○国語は好きか。

好き… 16名 嫌い… 6名

○どんな内容が好きか。

物語… 12名 作文… 6名

詩… 4名 漢字… 5名

○どんな内容が苦手か。

スピーチ… 15名 説明文… 9名

○読書は好きか。 好き… 27名

- ・指導観 そこで本単元では、詩の中の言葉を大切にし、言葉の中に隠れた意味や思いを感じ取れるようにしたいと考える。そのためには、全体の流れと連ごとの描写をしっかりととらえていく。また、「車輪」という言葉に特に着目し、音からの意味や形からの意味などいろいろな角度からとらえ、読解に深まりを持たせる。さらに、「遠くに行きたい」の文に込められた作者の思いまで考えを深めたいと考えている。

4) 指導計画

次	時	主な学習活動・内容	評価計画	
			観点	評価規準
1	1	・詩の視写をしたり暗唱したりする。	関心	・詩がもつ響きや言い回しなどを感じ取ろうとしている。
2	①	・題名から、言葉の意味を考える。 ・視写を通して表現されている言葉の意味を考える。 ・言葉の音読し、イメージを膨らませる。	言語 読む	・詩「レモン」を視写し、表現のおもしろさに気付くことができる。 ・言葉のイメージを自分の思いと関連づけながら広げることができる。
	2	・文頭のレモンと文末のレモンの違いに	読む	・対比している表現や繰り返しの表現の

		について考える。 ・繰り返される「車輪」について考える。 ・「遠くに行きたい」の持つ意味を考える。		意味を考えることができる。 ・作者の思いを自分なりにまとめることができる。
3	1	・情景を感じることができる詩を自分で探して読むことができる。 ・詩集を通して詩に親しみ、心に残る言葉に触れることができる。	関心 読む	・自分の心の残る詩を見つけようとしている。 ・詩を読んで自分なりに感じ取り、情景や言葉の思いを感じ取ることができる。

5) 本時の展開

1 目標

○詩「レモン」を読み、文中の言葉を表面だけではなく背面にある作者の思いまで細かく読み取ることで、情景や意味を考え、言葉を通して語りかけたい作者の思いを感じ取ることができる。

2 準備資料

レモンの写真 ワークシート

3 研究主題に迫るための手立て

本時の学習を通して「わかった」「できた」「楽しい」と感じるようにするために、解決の見通しがわかるようなワークシートの準備や考える視点（五感等）を明確にして児童に提示し、個々の発想や想像を大切にしたい展開を心がける。

4 展開

◎研究主題に迫る手立て

学習過程	学習活動・内容	指導上の留意点 ○個への配慮 (評)評価
課題 把握	1 本時の課題をつかむ 詩を読んで、そこから感じたことを まとめていこう。	・詩の学習であることを伝える。
自力 解決	2 題名「レモン」から想像できることを考える。 色 黄色 レモン色 鮮やかな色 味 酸っぱい おいしい 形 丸っぽい 長丸 ラグビー型 他 くだもの 飾り さわやか	○レモンについての考えがまとまらない児童には、レモンの写真を提示する。(視覚化) ・ワークシートに自分が思いついた言葉をいくようにさせる。 ○記入できる項目から入れさせる。 ◎色は目、味は口等五感を使うという視点を示し、自由な発想で詩の中に入れるようにさせる。 (評)ワークシートにまとめている姿が見られれば言葉から表現のおもしろさに気付いていると捉える。
比較 検討	3 「レモン」の詩を視写し、情景について考え、話し合う。 (1)1 連から 3 連までを視写し、考える。 ○レモンはどうしたいのか ・遠くに行きたい ○レモンをどうするのか	・ノートに視写するとき、行を空ける等の注意点を守らせるようにする。 ・内容をしっかり捉えるために連を分けて視写する。(焦点化)

総括・評価	・薄く切る ・いくつも切る (2)後半の1連(4連)を視写し,考える。 ○「車輪」の部分に入るのはどんな言葉か。 ・切り口から考えると ・1連から3連までの言葉で考えると ○繰り返しの意味はどんなことか。 ・転がる ・香りの余韻 ・遠くに行くスタート (3)1~4を音読し,5連を予想する。 ・繰り返しの言葉 ・1連から4連までの言葉 4 完成した「レモン」を音読する。 (1)全体で音読する。 (2)個人で音読する。 暗唱できるようにする。 (3)板書の部分を消しながら音読する。 消していく順序 ① 繰り返しの部分 ② 時系列になっている部分 ③ 複数の意味をもつ「車輪」 5 本時を振り返り,次時の学習を知る。	・視写の速さを考えながら質問をし,活動の重複がないように進めていく。 ○「車輪」の言葉は視写した中にあることを指示し,熟語2字であることを知らせるようにする。 ・繰り返しの言葉を確認し,同じ意味ではないことに気付かせる。 ・1連から4連までの流れから最後に使える連を考えるようにさせる。(共有化) ・繰り返しの言葉をしっかり捉えさせる。 ・言葉の持つ状況を浮かべながら暗唱させる。 ◎繰り返されている部分から消すことで容易に言葉を覚えられるようにする。 (評)音量や繰り返し部分の言い方等の工夫が見られれば言葉のイメージを自分の思いと関連づけながら広げることができたと捉える。
--------------	---	--

(2) 指導の実際

① 本単元で使用する「詩」

遠	レ	車	い	い	う	そ	う	遠	レ
く	モ	輪	い	く	す	れ	す	く	モ
へ	ン	か	つ	く	が	く	へ	ン	モ
は		車	お	も	切	わ	切	は	ン
行		輪	り	の	れ	か	れ	行	
き		を		ば	り	ば		き	は
た		車	ふ	車	ま			た	は
い		輪	り	輪	す			い	ち
の		ま						の	
で		い						で	よ
す		て						す	し
									こ

ア レモンの切り口の模様と作者の思い(気持ち)とが一体

イ 五感を生かせば,文字の裏側を想像できる

ウ 繰り返されている言葉は,前後で意味が変わっている

イについて

レモンからみえてくること

- ・味（口）…酸っぱさ
- ・色（目）…黄色 レモン色 薄いグリーン色
- ・音（耳）…切る音 動き出す音
- ・香（鼻）…いいかおり 甘酸っぱい香り
- ・感触（手）…ざらざら するっ

ウについて

- ・繰り返されている言葉は、前後で意味が変わっていること。

繰り返される言葉	意 味
レモンは 遠くへ 行きたいのです	一連…切られる前のレモンと捉えると 自分は一步を踏み出したいができない。 五連…切られた後のレモンと捉えると 車輪になることでどこへでも行ける。 何かの一步を踏み出せる。 自分の気持ちをリセットできる。 新たな気持ちになれる。
うすく切れば	二連…レモンに最初に包丁を入れる。どんな模様がで てくるか、想像の中の模様が現実に出てきた。 三連…何枚も何枚も車輪が出てくる。動きが出てくる。
車輪	三連…いくつも出てきた同じ模様。 四連…形・切った音・漂う香り・回転する音等様々な 想像に繋がる。 一步を踏み出した時の動きとも捉えることができ る。 *「ふりまいて」の言葉が「車輪」の動きをより 一 層感じるような展開になっている。

- ・「車輪」と作者の思いを結びつけることによって、ただ果物の断面を表したのではないことに着目できる。それは、これからの読み手がこれからどう自分を生かしていくかに繋がる。

② 育成を目指す具体的な言語事項と支援の手立て

○言葉のおもしろさに気付く力

（繰り返しの言い方 複数の意味にとれる言葉 等）

○詩の基本的な構成を理解する力

○詩を構成している文字から作者の思いを想像する力

次	時間	学習の流れ	育成を目指す具体的な言語能力	評価規準 (B)	
				規 準	支援の手立て
1	1	・詩の視写をしたり暗唱したりする。	・正確に視写する力 ・発音や抑揚などを考える力	・正しく視写することができる。 ・言葉を捉えて暗唱することができる。	・行数や空かすところを一緒に確認してから取りかかる。 ・原文は開いたままでもいいことを確認して取り組ませる。

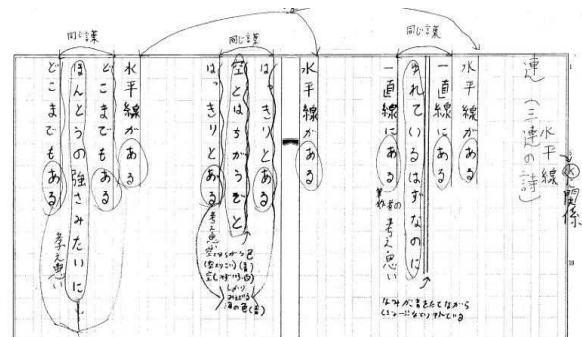
2	1	・題名から、言葉の意味を考える。 ・視写を通して表現されている言葉の意味を考える ・言葉の音読し、イメージを膨らませる。	・題名から想像する力 ・視写する力 ・言葉の意味を考える力 ・音読する力 ・イメージを広げる力	・言葉から表現のおもしろさを感じることができる。 ・言葉のイメージを自分の思いと関連づけながら広げることができる。	・視覚的な資料を使いながら感じたことをそのまま文字に表すように支援する。 ・イメージは個々で異なることを告げ、どんな「景色」が見えるか一緒に考える。
	2	・文頭のレモンと文末のレモンの違いについて考える。 ・繰り返される「車輪」について考える。 ・「遠くに行きたい」の持つ意味を考える。	・言葉の意味の違いを考える力 ・言葉に託された作者の思いを感じる力	・繰り返されている言葉はそれぞれ違った意味を含んでいることを考えることができる。 ・作者の思いを感じることができる。	・何度か出てくる言葉にラインを引く等着目できるようにする。 ・具体的な理由がなくても違いが感じ取れれば認めていく。 ・短文でも思いが書けるよう言葉を一緒に考える。
	3	・情景を感じることができる詩を自分で探して読むことができる。	・詩の持つ背景を感じる力 ・好きな詩を選ぶ力	・詩の音読に関心を持って詩に親しむことができる。	・興味がある果物シリーズ等〇〇シリーズの詩を選んでみるよう促していく。

③ 指導の流れ

ア 視写をしよう

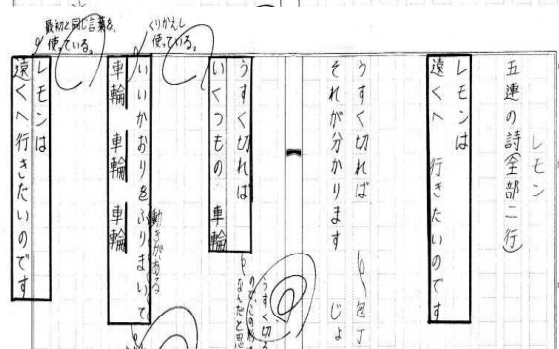
準備の段階で行った指導では、視写に慣れ、読み取りのために、詩全体を感じたり言葉一つ一つ着目したりすることが大切であることを確認した。

(資料1)



詩の学習であることを確認した上で本時の指導に用いた「レモン」の視写をさせた。そして、言葉の読み取りに中心を置くために、文字が揃う、行の取り方が確認できる、間隔がきちんと取れる等の理由で全員同じ原稿用紙を使用した。

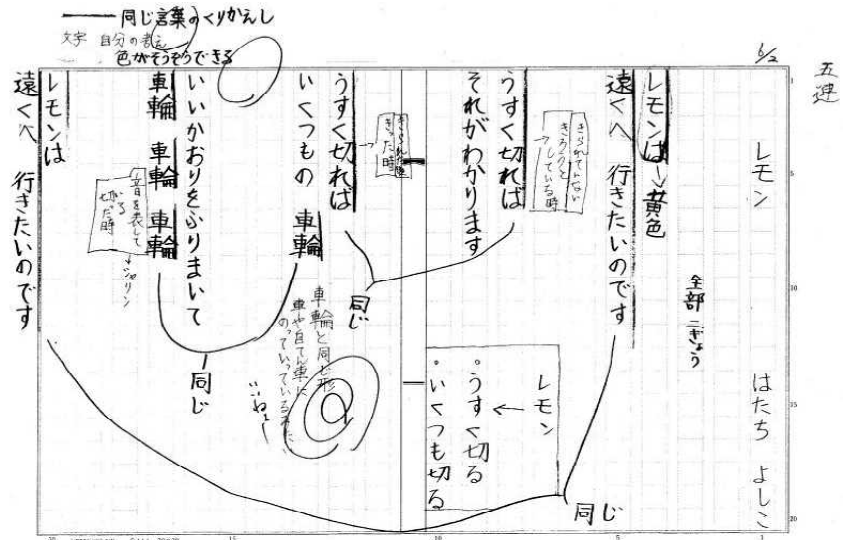
(資料2)



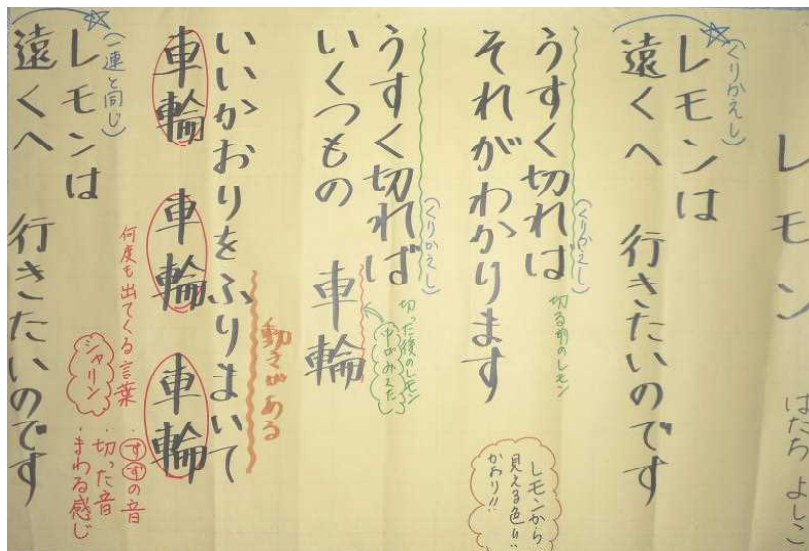
イ ワークシートへの書き込みをしよう

児童が実際に書き入れたワークシート (資料3)

P5にも記載したが、五感を使って自分の思いを膨らませたいと考え、ワークシートは、項目ごとにまとめられるようにした。



クラス全体でまとめたもの



- 個々の発想を大切にする一方で、詩の学びの基礎基本も大切にしたいと考え、「連」の指導や表現方法（繰り返しの手法 体言止めなど）をおさえるようにした。
- 気づきの共有を図るために、全体でまとめる時間を取り、自分の気づきとの比較検討ができるようにした。
- ワークシートからもわかるように、個々の読み取りを見ていくと、言葉の使い方で表面的にみえている部分と作者の内面を表している部分とをしっかりと感じ取っていることがわかる。

エ 作者の思いを感じ取ろう（一部抜粋）

児童	児童の言葉
A子	作者が3回車輪を入れたのは、たくさんある車輪のようなレモンの中を使って遠くへ行きたいことを表していると思います。
B男	車輪を3回入れたのはレモンが遠くへ行きたいのを表した考え
C男	レモンを切った時、車輪にみえたから、物と音の車輪にしてみた。良い香りをふりまいては、遠くにいけるようにしたいなあと思い動きを表す言葉を入れたと作者は思っていると思う。
D男	作者の考え。

E 子	作者は、「レモンは遠くに行きたいのです」という所で考えたことは、切ると車輪の形だから遠くにいききたいのかなあと書いて書いたと思います。」
F 男	作者は、レモンは遠くに行きたいか考えて車輪を何回も入れた。
G 子	レモンを切れば、車輪のような形になるのできっとその車輪で遠くにレモンは行きたいと思ったから遠くにいききたいのですを大切と思い2つ入れた。
H 子	レモンを切った時に見えたタイヤ（車輪）のような形を見て、「タイヤ（車輪）＝走る物」だというように考え、「レモンは遠くに行きたい」という考えが浮かんできたんだと思う。
I 男	レモンはどこか広い、行ったことがないところに連れて行ってあげたいと作者はそれを伝えようとしたんだと思う。

- レモンの切り方で「車輪」のようになることはほとんどの児童がわかり、それが動きを持つ言葉であることも理解できていた。しかし、実際に見えている物を対象にして自分の内面の気持ちを表現していることにまで深く読み取ることができなかった。
- 何となく詩の内面まで読み解こうとしている児童はいたが、どう表現していいかわからない様子が読み取れる。



読み取りからわかったこと

- ・ 視覚的に見える文字を比較検討しても、言葉の意味を考える力が不足している。
- ・ 自分が感じた思いを表現するために適切な言葉（語彙力）が不足している。
- ・ よりわかりやすく読み手に伝えるための表現の仕方が不十分である。

オ 詩を読んでお気に入りの詩を見つけよう

- 様々な詩に親しみを持ちながら読むための場を学年のフロアーに設置した。ちょっとした時間に自由に手に取れるようにしたため、通りがかりに立ち止まって詩集を手にする児童を見かけるようになった。
- 読書の足跡がわかるように「読書マラソン」を設定し、そのジャンルの一つに詩を取り入れた。



読書マラソンにチャレンジ！

5年生・「伝記・詩・物語」をよんでみよう				
本のゆきえ	1	2	3	シール
たんじゅうひ	レイチェル・カーソン	銀河鉄道の夜		



読書マラソンにチャレンジ！

5年生・伝記・詩・物語をよんでみよう				
本のゆきえ	1	2	3	シール
あこがれ	赤瀬川	風之又三郎		

5 実践を終えて

(1) 仮説の検証

仮説（１）について

短編の詩を教材にしたことで、詩全体をみることができ、そのことが言葉一つ一つに着目するきっかけになった。それは、詩の視写の段階で必ず見開きになるようにし、ページをめくることなく見られるようにしていった。

書き込みの余白を多く取ることで自由な記述が増えた。最初書き込みに戸惑っていた児童も、見つけていくための観点（五感 疑問点など）を示すことで、自由に記述することができるようになっていった。

仮説（２）について

詩全体をみると同時に、繰り返されている言葉の背景にある時系列を感じることで、同じ言葉でもその意味には微妙な変化があることを感じ取ることができていた。自分の考えを記入し、何となく詩の背景にある情景や心情を感じられたが、何となく抱いた自分の思いをうまく表現できていない現状が浮き彫りになってしまった。

学習の終わりに行った詩の暗唱の時に、黒板に板書した詩の一部分を消しながら繰り返し暗唱していった。繰り返し使われている言葉に着目させるために１連と５連を同時に消したり車輪の発音の仕方を工夫させたりした。部分消ししながらの暗唱だったため、下位児に対しても容易に行うことができた。

仮説（３）について

書き込みの活動時間は１５分程度の確保になってしまった。もう少しじっくり向き合えるだけの時間があれば、作者の真の思い（車輪に思いを寄せ、自分が一歩踏み出したい気持ちであること）に迫ることができたかもしれない。活動時間中は、できるだけ児童の書き込みに寄り添い、丸付け法を入れながらその場での賞賛を図っていき、一人一人の気付きに間違いはないことを示していった。

(2) 成果と課題

- 成果
- ・読みの視点を示すことで意欲的に作品に向き合う態度が見られた。
 - ・長文の読み取りが困難な児童も短編であることで集中して取り組むことができた。
 - ・身近な言葉に込められた思いを感じるきっかけ作りになった。
 - ・あまり触れることがなかった詩のジャンルまで、読書の幅を広げることができた。
- 課題
- ・読み取りが長文になったときに、どんな言葉に着目して考えを巡らせていけばいいかを支援していくこと。
 - ・自分の思い・考えを相手によりわかりやすく発信していくための方法や技能の定着を図っていくこと。
 - ・説明的文章や文学的文章、記録の文章など様々な教材（作品）を前にしたときに、どのように読んでいったらいいか学びの方法を提示していくこと。

参考文献

- ・「小学校学習指導要領解説 国語編」 文部科学省
- ・学習スキル１０１の方法 教育出版